

# 環境特集によせて

パナソニック（株） 品質・環境本部  
本部長 尾本 勝彦



1918年の創業以来、当社の使命は、生産・販売活動を通じて社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与することです。当社の「綱領」には、事業を通じて世界の人々の生活をより豊かに、より幸福なものにするという事業目的が示されています。当社は、これを経営理念として全ての事業活動の基本とし、公明正大な活動を通じて、社会とともに発展していくことに日々取り組んでまいりました。言わば、当社のサステナビリティ経営そのものです。このサステナビリティの考えを徹底し、次の100年に向け“A Better Life, A Better World”の実現を目指し、たゆまぬチャレンジを続けてまいります。

過去100年を振り返ると、大量生産・大量消費の高度経済成長時代や情報通信技術の急激な発展によるデジタル革命時代を経て、便利で快適な生活を得ることができました。その一方で、自然環境への負荷が大きくなり、環境、経済、社会のバランスが崩れ、気候変動やエネルギーに関連した多くの社会的課題に直面しています。経済発展と社会的課題解決を両立する、持続可能な社会づくりへの関心がグローバルで高まっています。これを受けて、世界各国が一致して温暖化対策に取り組むことを定め発効したパリ協定、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）などの達成の動きが活発になっています。当社でも、社会的課題解決に向けた企業が果たす役割への期待に応えるため、2010年に策定した環境行動計画「グリーンプラン2018（GP2018）」に沿った、生産活動と製品使用時のCO<sub>2</sub>削減などを進めてきました。さらにより長期的な環境経営が目指す方向性を明確にするため、「パナソニック環境ビジョン2050」（以下、環境ビジョン）を2017年に策定しました。

この「環境ビジョン」は、より良いくらしと持続可能な地球環境の両立に向けて、クリーンなエネルギーでより良く快適にくらせる社会を目指し、“使うエネルギー”を削減すると同時に、それを超えるクリーンなエネルギーの創出・活用を進めるものです。現状、“使うエネルギー（生産など当社の事業活動で使うエネルギーや当社の

製品がお客様のもとで使うエネルギー）”の総量に対して“創るエネルギー（太陽光発電、二次電池による蓄電、エネルギーソリューションによる有効活用など当社の製品やサービスが創出・活用可能にするクリーンなエネルギー）”の総量は1割程度に留（とど）まっています。今後、製品の省エネ性能向上に関する技術開発やモノづくりプロセスの革新で“使うエネルギー”を可能な限り抑制していきます。あわせて、創・蓄エネルギー事業の拡大や、水素社会など新しい社会システムへの貢献を通じてクリーンなエネルギーの活用機会を増大することで、“創るエネルギー”を増やしていきます。こうした取り組みを通じ、2050年に向けて“使うエネルギー”を超えることに挑戦していきます。

具体的には、“A Better Life, A Better World”の実現を目指した以下の取り組みを進めます。

- ① クリーンなエネルギーで安心してくらせる社会をつくります
  - ・ エコでスマートな生活空間のご提供
  - ・ エコでスマートな移動・輸送へのお役立ち
- ② 持続可能な社会を目指した事業推進をします
  - ・ 資源の有効活用の促進
  - ・ CO<sub>2</sub>ゼロ工場づくりの取り組み

今回の特集では、当社の環境に対する目指す姿として策定した「環境ビジョン」の具体的取り組みやエネルギー課題の解決を担う、水素燃料電池、ペロブスカイト太陽電池、工場向け省エネ技術に関する技術論文を掲載しております。また、2015年の国連総会において全会一致で採択されたSDGsについて、日本のSDGs研究の第一人者である慶應義塾大学大学院の蟹江憲史教授より、『「環境」ビジネスを超えたSDGsの成長』と題して、日本のSDGsの普及状況と今後の取り組みについてご寄稿をいただいております。

本特集をご高覧いただき、当社の環境への取り組みや技術開発についてご理解を賜りますとともに、忌憚（きたん）のないご意見、ご指導を頂戴できれば幸甚です。